

# 「ニュース女子」問題深く反省

本紙の長谷川幸洋論説副主幹が司会の東京MXテレビ「ニュース女子」一月一日放送分で、その内容が本紙のこれまでの報道姿勢および社説の主張と異なることはまず明言しておかなくてはなりません。

加えて、事実に基づかない論評が含まれており到底同意できるものではありません。

残念なのは、そのことが偏見を助長して沖縄の人々の心情、立場をより深く傷つけ、また基地問題が歪めて伝えられ皆で真摯に議論する機会が失われかねないということでもあります。

他メディアで起きたことではあっても責任と反省を深く感じています。

論説主幹・深田実が答えます

## 沖縄報道 本紙の姿勢は変わらず

読者の批判重く受け止め⑤面

す。とりわけ副主幹が出演していました。多くの叱咤の手紙を受け取りました。

「一月三日の論説特集で主幹は『権力に厳しく人に優しく』と言っていたのにそれはどうした」という意見がありました。

それはもちろん変わっていません。

読者の方々には心配をおかけし、おわびします。

本紙の沖縄問題に対する姿勢に変わりはありません。

「ニュース女子」問題とは

東京MXテレビは1月2日放送の番組「ニュース女子」で冒頭約20分間、沖縄県東村高江の米軍ヘリコプター離着陸帯建設への反対運動を取り上げた。本紙の長谷川幸洋論説副主幹が司会を務めた。

「現地報告」とするVTRを流し、反対派を「テロリストみたい」「雇われている」などと表現。反ヘイトスピーチ団体「のりこえねっと」と辛淑玉共同代表(58)を名指し、「反対派は日当をもらってる!」「反対運動を扇動する黒幕の正体は?」などのテロップを流した。辛さんは取材を受けておらず、報告した

軍事ジャーナリストは高江の建設現場に行っていなかった。

MXは「議論の一環として放送した」とし、番組を制作したDHCシアターは「言論活動を一方的に『デマ』『ヘイト』と断定することは言論弾圧」としている。辛さんは名誉を侵害されたとして、1月27日、放送倫理・番組向上機構(BPO)放送人権委員会に申し立てた。

のりこえねっとは沖縄の現場から発信してもらう「市民特派員」を募集、カンパで捻出した資金を元手に、本土から沖縄までの交通費として5万円を支給。昨年9月から12月までに16人を派遣した。

## 1回目は津田大介さん ③面

ジャーナリスト



か。識者に聞く。

東京MXテレビの番組「ニュース女子」が一月一日に放送した内容について、沖縄の米軍基地に異議を唱える人びとの憎悪を広めた「ヘイト放送」との批判が出ている。番組の奥にある本質は何

憎悪

# 沖縄ヘイト「言説」を問う